



まちかど インタビュー

町民も気軽に参加できる催しに 日本代表へエール

サッカーワールドカップが6月11日から南アフリカで開催されました。

当地域には「Jヴィレッジ」が立地されていることから、サッカーの町として全国にアピールするため町職員と議会が一丸となり応援をしました。惜しくもベスト8には進めませんでしたが、その取り組みについて町民の意見を伺いました。



小野真由美さん
(広洋台・2丁目)

「サッカーのまち広野」をPRすることが出来てとても良かったと思います。

地域にはJヴィレッジやJFAアカデミー福島があるので、町民は何らかの形でサッカーに関わっています。

サッカーというスポーツを

とおして町が一体となる事は、素晴らしい「町づくり」につながるのではないのでしょうか、そうすればきっと、この町から日本代表が誕生すると思います。



池田 寿典さん
(広洋台・1丁目)

今回、町が「サッカー日本代表応援プロジェクト」によってユニホームを着用し公務に就かれたことは、町をPRする上でとても良かったと思います。

このようなプロジェクトの実施にあたっては、町民も気軽に参加出来るような催しであれば、もっと「サッカーのまち広野」をPR出来るのではないのでしょうか。



編集後記

サムライジャパンがベスト8をかけたサッカーのワールドカップ。

死闘の120分の末の残酷なPK戦。

クロスバーにシュートをはじかれた駒野選手の号泣は、私たちの胸を詰まらせるにあまりあった。

彼は親を亡くし、ブ口入りから仕送りで家庭を支え弟を教育したという。

その弟が、兄に送る言葉は『あの場でPKを蹴ったことに誇りを持ってほしい。』だった。

「誇り」は、人間を大きく育てる礎である。やがて広野からアカデミーの子どもたちがその舞台で活躍する日がやってくる。

新たな広野町の誇りを静かに待ちたいと思う。

日本サッカーの将来へ向け、惜しみない拍手を送りたい。

(遠藤 智)

発行・編集責任者

議長 坂本 紀一

広報委員会

- 委員長 中津 伸一
- 副委員長 渡邊 正俊
- 委員 鈴木 紀昭
- 委員 塩 史子
- 委員 渡辺 久長
- 委員 鈴木 正範
- 委員 遠藤 智



モリアオガエルのたまご (五社山)

次の定例会は9月です